

経営学科

1. 教育研究上の目的

経営学科は、現代社会が直面する国内及び海外の様々な経営問題に対して、理論的な知識や実証的手法を身につけ、経営及び関連する制度上の諸課題について自ら問題を設定・分析する能力及びそのための豊かな創造力を持ち、かつ、高い倫理性を備えた人材を育成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（経営学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 企業及び組織の多様な経営問題を分析・解決するための基礎的な専門知識及び関連する企業・組織の事例について理解している。
2. 現実の企業・組織における問題点や課題を自らつかみ、その解決のための仮説の設定や検証のための方法論を理解している。

（思考・判断・表現）

3. 幅広い一般教養に基づき、企業・組織を単に経済的な利益のみでなく、社会的な規範や倫理、文化等の観点から深く理解し、経済・社会の持続的発展に寄与する価値観を有している。
4. 日本語・外国語を問わず、他者の意見や考え方を理解し、自らの意見や考えをわかりやすく表現・伝達して、相手の理解を得るためのコミュニケーション力を身に付けている。

（関心・意欲・態度）

5. 企業や組織の経営に関心を持ち、フィールドワーク等を通じてデータや事例の収集に主体的にかかわることができる。
6. 単に専門的知識を身に付けているだけでなく、その知識を企業等の経営や経済・社会の発展に活かしていく実践的な態度や意欲を持っている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力・資質（知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度）を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 1年次から4年次までの各年次で、少人数で主体的に学ぶ演習（ゼミナール）科目を提供する。
2. 経営学に関する基礎的な知識や分析力を身につける科目を開講し、重要な科目群に位置づける。
3. 経営学に関する専門性の高い理論や実務への応用を学修する科目を開講し、履修を推奨する科目群に位置づける。
4. 一般的な英語の語学教育に加えて、英語で経営学に関する内容を学修する機会を提供する。
5. 経済学・法学・政治学などの隣接領域や幅広い基礎教養科目等を履修することができる。

（教育方法）

1. CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。
6. 分析のツールとして重要な情報科目では、コンピュータを用いた実習を取り入れる。
7. SA（スチューデント・アシスタント）制度を導入することで、上級生から下級生へときめ細かい学修補助を行う。
8. 高度な専門知識の修得を促し、大学院進学へのアクセスを容易にするため、早期卒業制度を設ける。
9. 交換留学や国内外での課外活動・フィールドワークを奨励する。
10. 教職課程科目や資格に関連する科目の開講による教職免許・資格取得支援を行う。
11. 履修登録の相談、教材の配布、レポートや発表資料の準備など、学生の教育を多面的に支援する共同研究室を設置する。

（教育評価）

1. 経営学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、成績評価の平均点による判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

（思考・判断・表現）

2. 身近な企業の活動、経済、政治、社会の動きに対して、正確な知識や情報を収集し、一貫した筋道を立てて思考する力を備えている。
3. 与えられた課題や資料の内容を正確に読み取った上で、考えをまとめ、的確に発信し、表現する力を持っている。

（関心・意欲・態度）

4. 経営学に関心があり、その専門知識や経験を会得し、日常生活や社会において活かしたいという意欲がある。
5. 科学、芸術、自然、文化、スポーツなど幅広い分野に関心を持ち、世界各地で共通する価値とともに多様な存在を受け入れることができる。
6. 積極的に他者とコミュニケーションをとり、相互理解に努める意欲があり、柔軟性のある思考をすることができる。

以 上